

9月 イヌワシ



ふ化後33日の雛に二ホンジカの幼獣を餌食する母ワシ

野生のいぶき
湖国のフィールドから
動物写真家 須藤一成

6

イヌワシは、体長80~90cm、翼を広げる
と2mにもなる大型の猛禽だ。北海道から
九州までの山岳地帯に生息する。ノウサギ
やヤマドリ、ヘビなど中型の動物を捕食す
るので、野生動物がたくさん生息する、豊
かな自然環境が残された地域に分布してい
る。このことから自然環境のパロメーター
と呼ばれている。

全国のイヌワシの繁殖成功率は、調査が
開始された1981年の55%から2010
年以降10%前後にまで低下し、生息地か
ら姿を消してしまったイヌワシが増加してい
る(日本イヌワシ研究会調べ)。滋賀県で
もかつて11ペアの生息が確認されていた
が、現在ではその半分以下になっている。
繁殖成功率の低下やイヌワシの減少は、
獲物となる野生動物が減ったり、それらを
狩る場所が少なくなったことが大きい
影響している。主要な獲物であるウサ
ギやヤマドリは、かなり生息数が減ってい
る。山に植林されたスギやヒノキが手入れ
されず、鬱閉した森となつたことは、動物
の減少とイヌワシの狩場が減つたことと密
接に関係している。

山で獲物が捕れない時に遠くまで遠征
して狩りをしているイヌワシペアを見たこ
とがある。営巣地から10km以上も離れた
琵琶湖岸上空を飛び回り、あたりに沢山い

巣立った幼鳥の飛翔。翼と尾羽の
白斑が美しい

II 第3水曜に掲載予定
自然環境のパロメーターであるイヌワシ
を通して、様々な動植物が生息する多様性
ある豊かな自然環境を残せるよう、今後も
活動していく。

綱渡りの繁殖、シカの幼獣襲う

だつた。もう一回はノスリを同様に捕獲し
た。

イヌワシはノウサギやヤマドリが少なく
なつても、その時々で捕獲できる様々な動
物を獲物としているが、自らが生きてい
けで精いっぱい。雛を育てるだけの余裕
がないのが現状だ。そんな中、近年では二
ホンジカの増加に伴つてその幼獣が頻繁に
イヌワシのメニコーにのぼるようになっ
た。成獣は大きすぎて捕獲することはでき
ないので、生まれて間もない幼獣を狙う。
そのため、二ホンジカを獲物として利用で
きるのは、二ホンジカの出産期である6
月だけなのだ。一時は言え、大きな獲物が捕獲できるることはイヌワシにとって
大きなメリットになつていているだろ。

僕が重要なライバルとしている伊吹地域のイヌワシペアは、昨年14年ぶりに繁殖地に成功して雛を巣立たせた。しかし、育定期には雛は獲物がなくなつてしまつて、度々あつて、雛が餓死するのでほどハラハラさせられた。イヌワシが生きていくけるかどうかは綱渡りのような状況だ。

自然環境のパロメーターであるイヌワシを通じて、様々な動植物が生息する多様性ある豊かな自然環境を残せるよう、今後も活動していく。



二ホンジカの幼獣(体重5kg以上)を捕らえて飛行する。イヌワシの体重は3~4kgで、自分よりも重い獲物を軽々と持ち上げる



すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に撮影に取り組む。米原市在住。写真集『Golden Eagle イヌワシ』(平凡社)など。